東根温泉誌

完

339
7

023503-000-4

339-7

東根温泉誌

金沢　西石／編

M44

ADC-0475

東根温泉誌

東北出版協會

◉改良浴室　◉風光優美

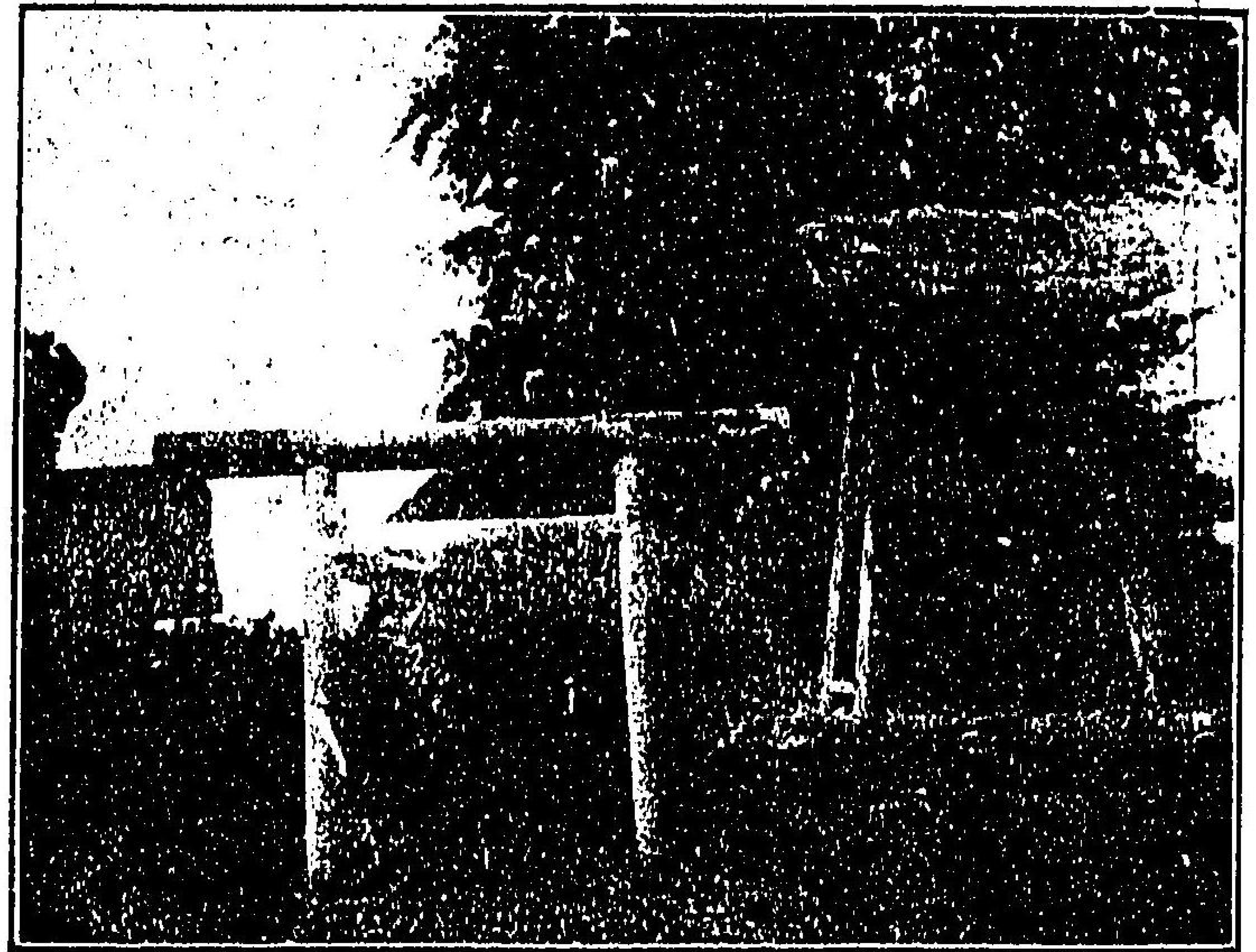
羽前國東根温泉

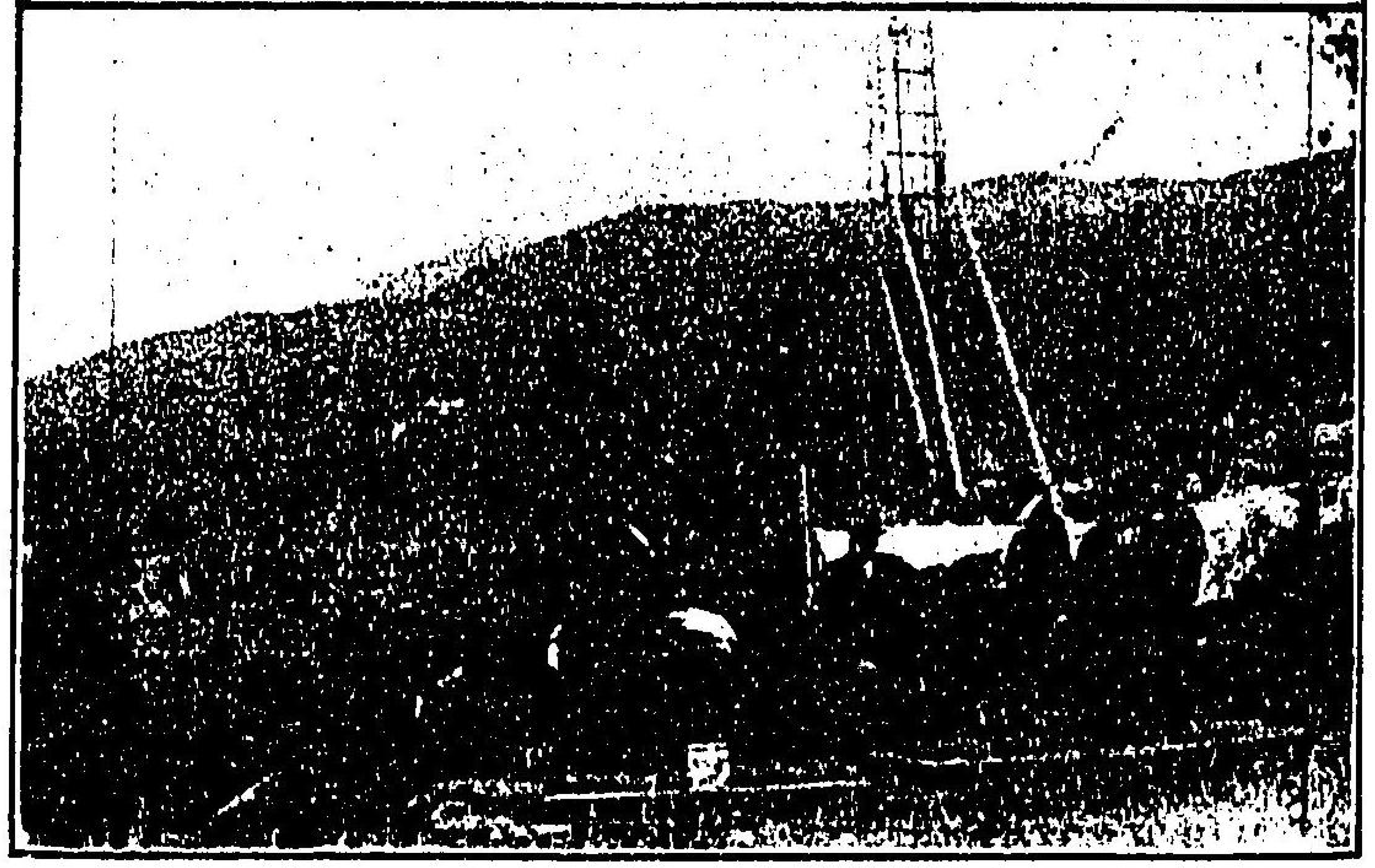
温泉旅館

青松館

◉客室清雅　◉懇切誠實

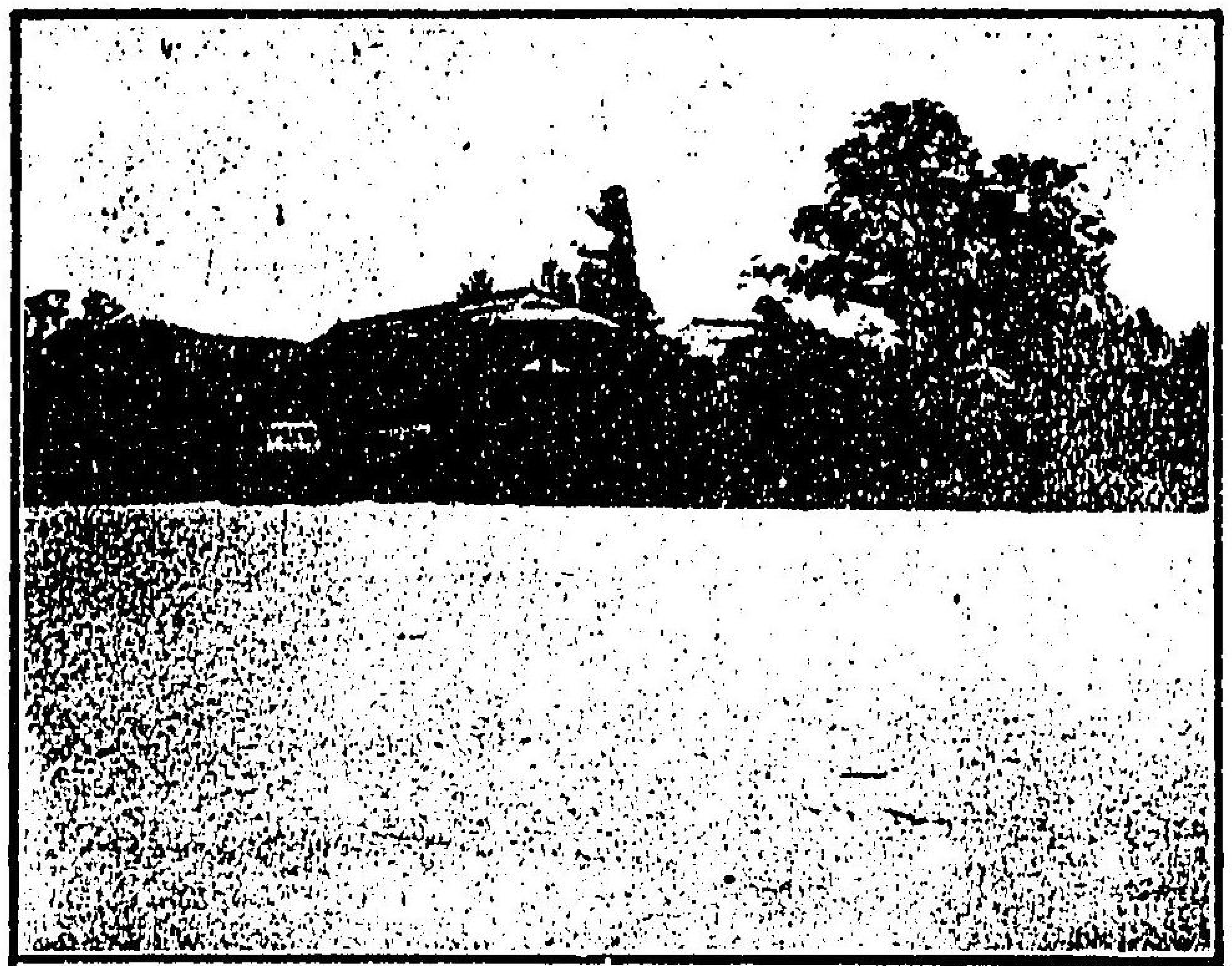
正平中ノ鑄造ニ係ル龍光寺ノ鐘





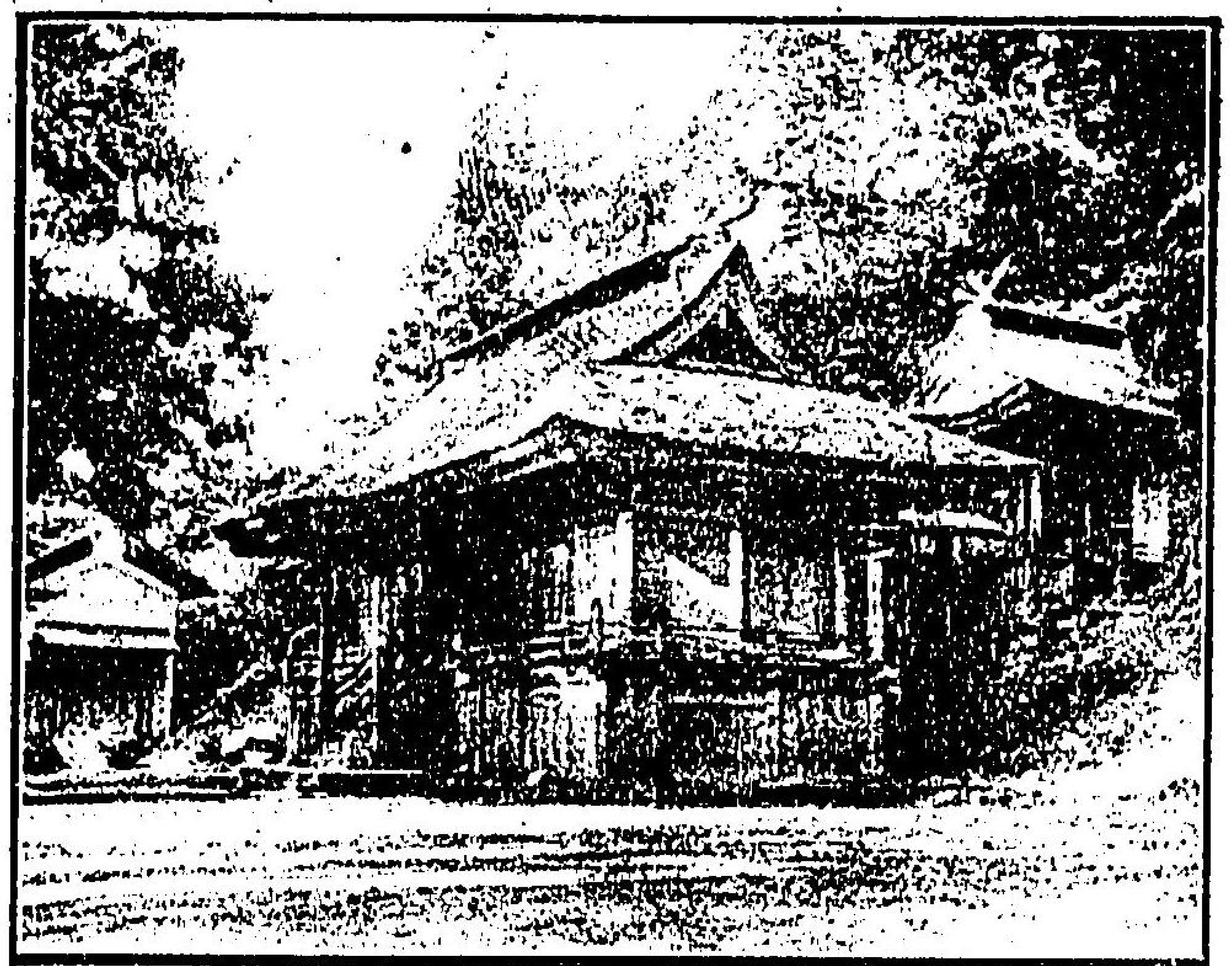
神保博士温泉調査ノ實景

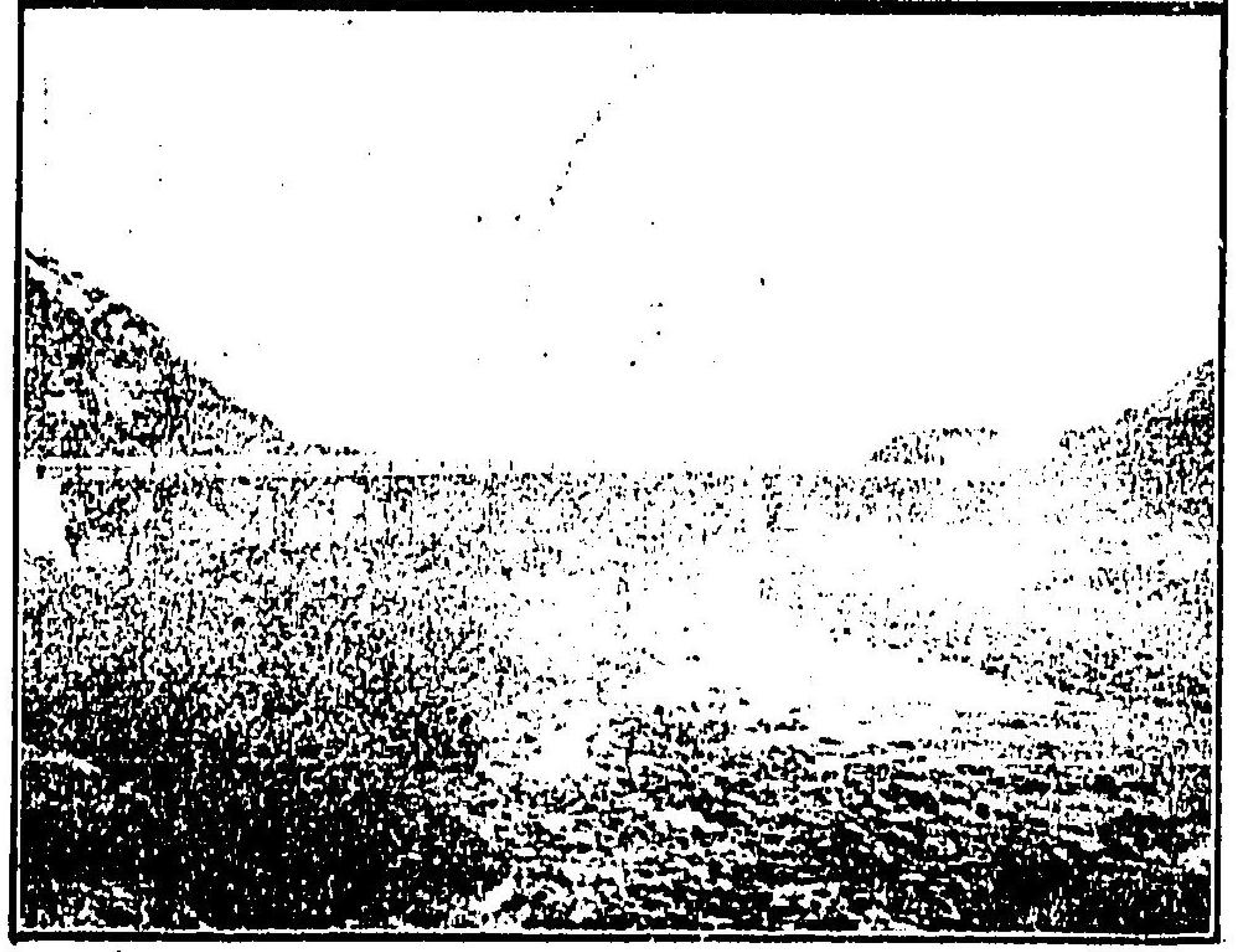
龍光寺沼



大森山古戰場

若宮八幡神社





黒烏山鵲橋

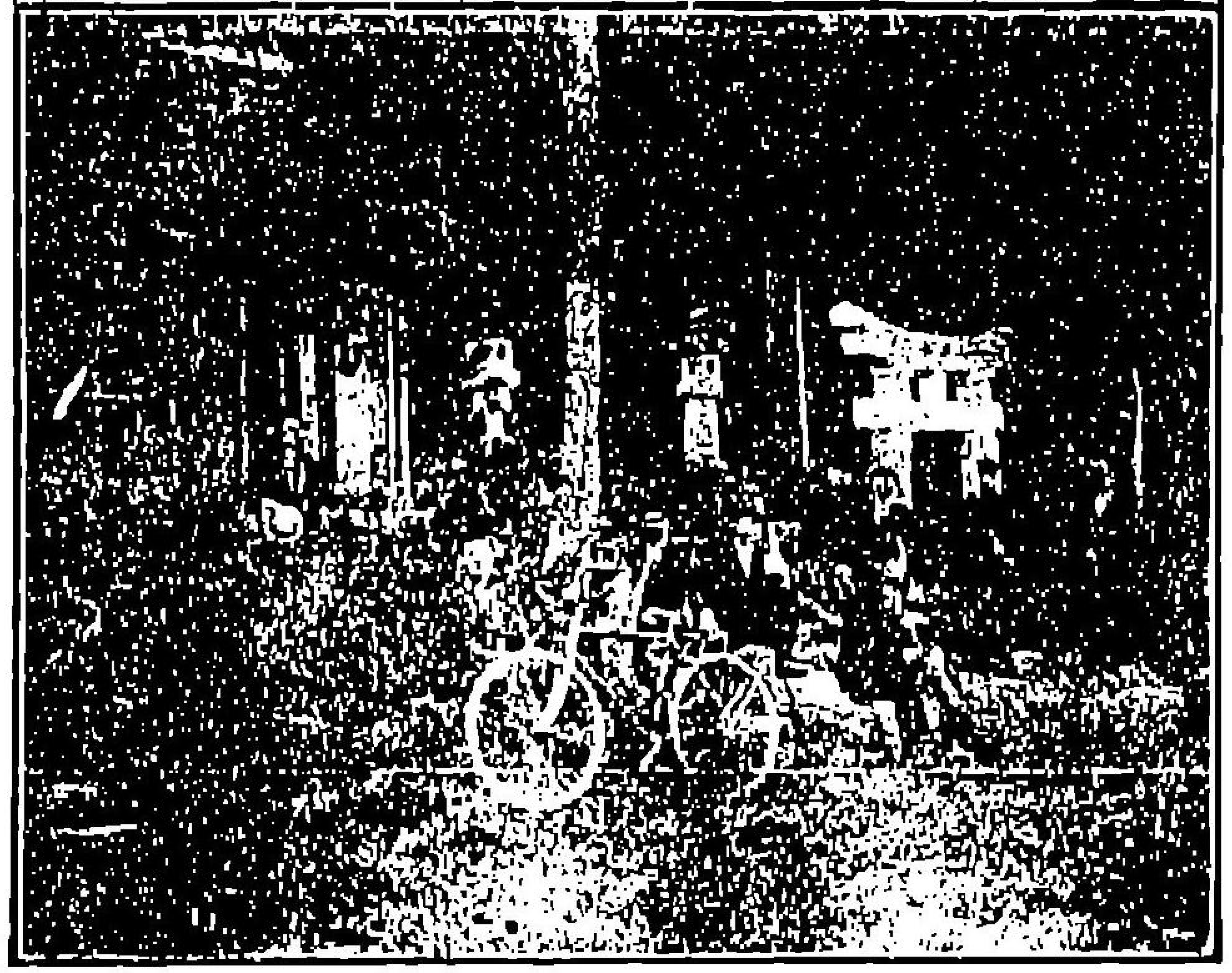
東根温泉誌

金澤西后編

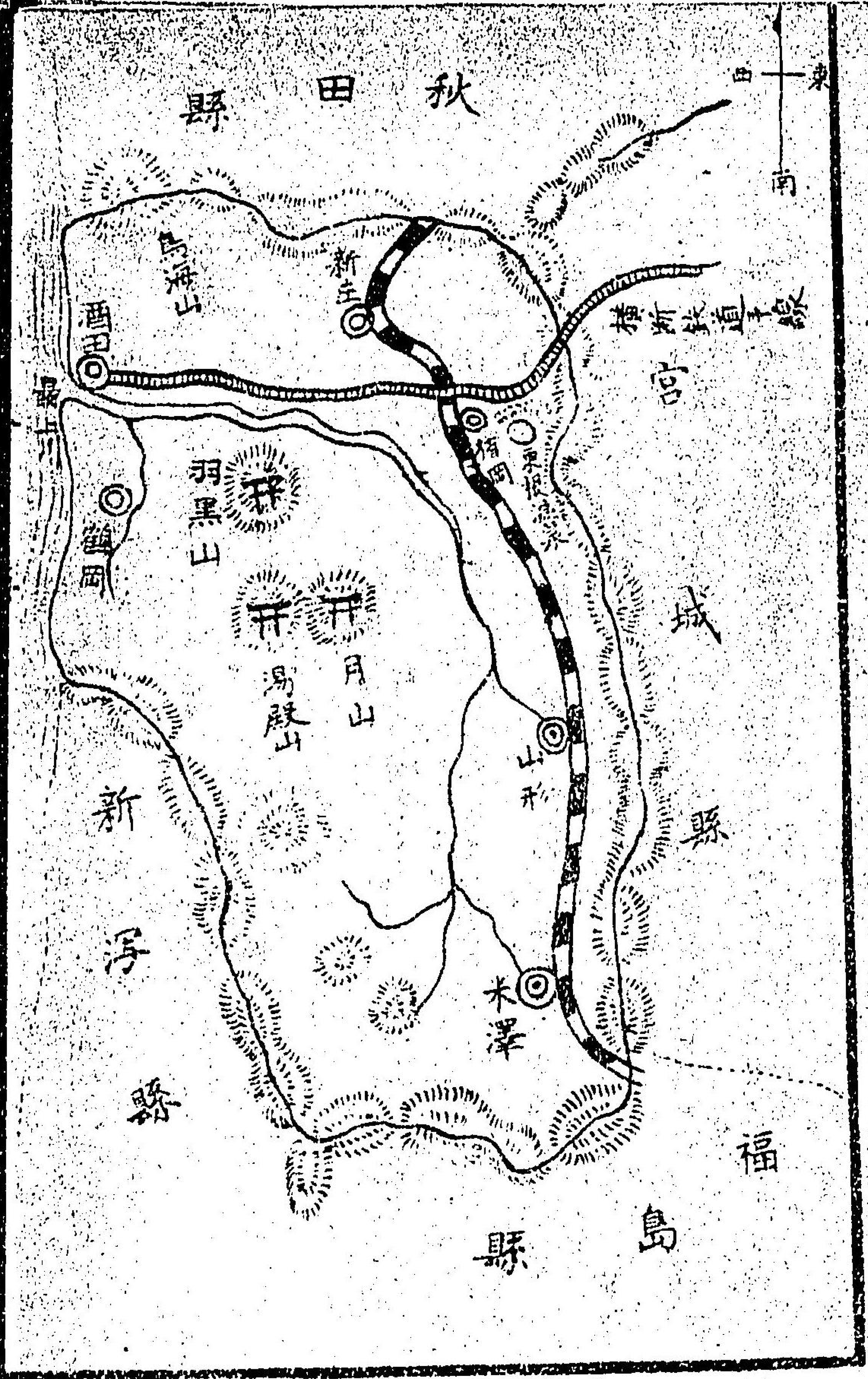
仙臺 東北出版協會

明治 44.11.20 內交

正平年間ノ建立ニ係ル藥師堂



荷渡ノ地藏尊



東根溫泉誌

編者　金澤西石

編者の見たる東根溫泉場

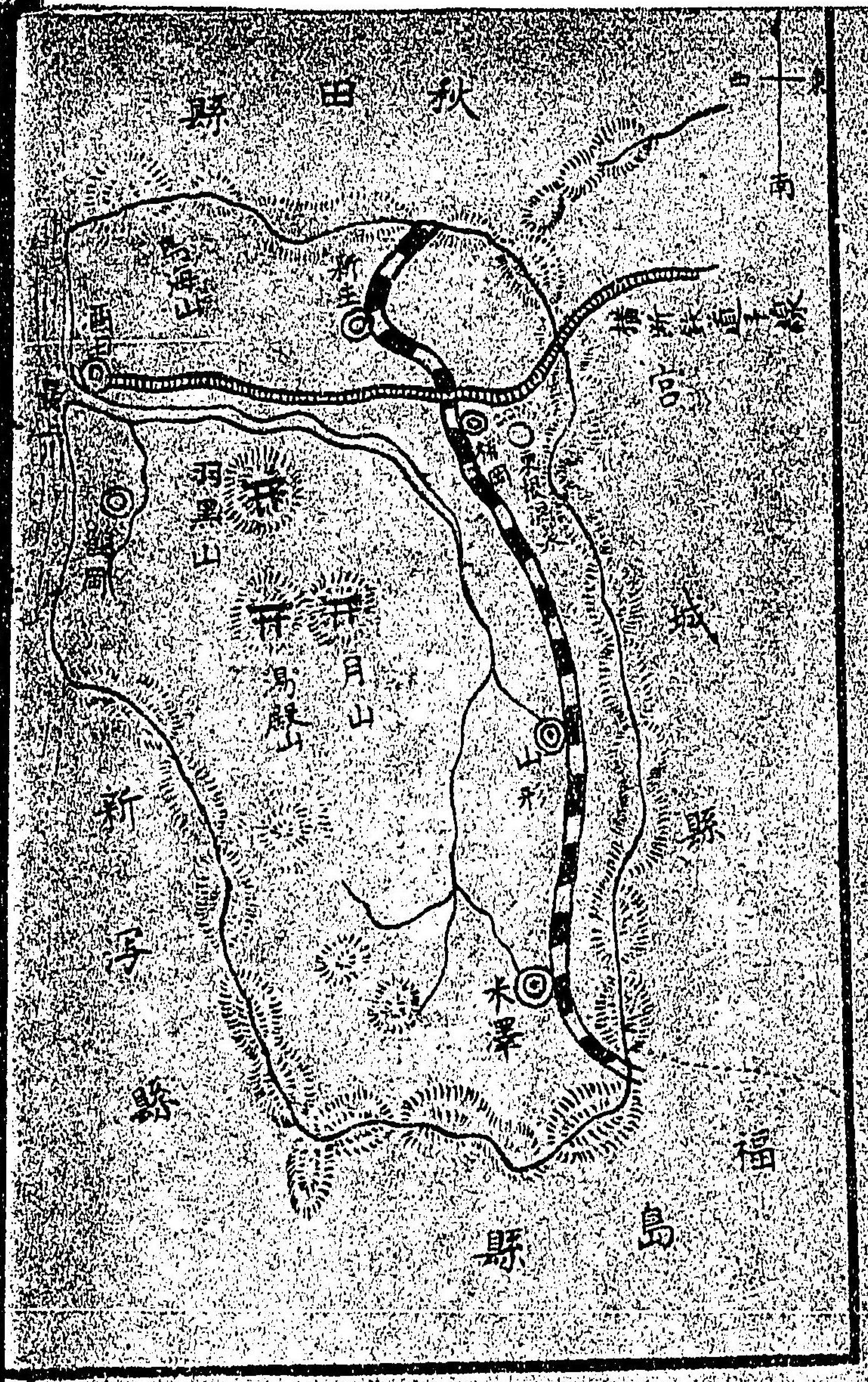
△天は高く　肥馬黄稻に嘶く九月の新秋、山形縣下北村山郡東根溫泉場に遊ぶ。溫泉は客歳六月中旬の發見に係るを以て開湯日尚ほ淺く、爲めに社會に其の眞價を認められざる之已か、却つて普通溫泉開湯當時の狀態にありて溫泉場としての設備完成せず隨て萬事不便なるが如く臆惻する者も多きが如し、未た東根溫泉場に入らざる先の編者も實に如上の想像の許に東根溫泉場を想察せる一人なりし、然るに一度東根に入るに及びて心機一轉其の盛大隆昌なるに曩の想像と雲泥の差あるは勿

東根温泉誌

編者の見たる東根温泉場

編者　金澤西石

▲天は高く　肥馬黄稲に嘶く九月の新秋、山形縣下北村山郡東根温泉場に遊ぶ。温泉は客歳六月中旬の發見に係るを以て開湯日尚ほ淺く、爲めに社會に其の眞價を認められざる之已か、却つて普通温泉開湯當時の狀態にありて温泉場としての設備完成せず隨て萬事不便なるが如く臆測する者も多きが如し、未た東根温泉場に入らざる先の編者も實に如上の想像の許に東根温泉場を想察せる一人なりし。然るに一度東根に入るに及びて心機一轉其の盛大隆昌なるに曩の想像と雲泥の差あるは勿



論其の火急の發展に驚嘆せり。

思ふに百聞は一見に如かずと言ふが如く其の實際に當らずんば何物も得ざると同様、單に東根に新温泉の發見になりしを耳にし、直に日數よりして之を考ふれば右の觀察を以て東根温泉塲を想察するは無理も無く、むしろ當然の事に屬す、況や東根温泉塲の如く一瀉千里の勢を以て霹靂火の如く盛大向上の域に進みしは他に見ざる所なるに於てをや、之れ深く編者の腦裡に印象を與ひしもの、蓋し特更に此の頁を書し所以なり。

▲位置地勢○○○等は更に順序的に述ぶる所あるにより感想を到着當日より翌日に至る迄でを記し、更に進んで何故に斯く急激隆盛に至りしや、是れには必ず確然たる原因のあらざれば能はざること、之を詳述して以て此章を擱筆せんと欲するなり。

楯岡驛に下車して道を里人に問へば、東八九丁にして達すと教ゆ、行いて楯岡町端を過ぐれば、遙に田甫の中、萬燈の壯觀全く不夜城の觀を呈するあり、之れ即ち東根温泉塲たる也。

愈々温泉塲に第一歩を運べば、道路は成り進むに從つて縱横に區劃され商舖櫛比し一の市街を爲し居れり、某旅館に入れば浴客充滿し、止むなく舍主の居室をして供せられたり、旅勞を癒すべく先づ浴室に入れば、清麗にして宏壯なる浴室は最も衛生的に且つ風紀嚴重なる建築に成り、湧出する鑛泉は浴槽に漲り清淨を極む。

入浴を終ひて室に戻れば既に晩餐の座に在るあり、饗せらるゝ松茸、鮎は天下一品の美味たるを覺ゆ、如斯、道路に客室に浴槽に完整し居るとは實に豫想外の事に屬せずんばあらず。

軈て茶を喫し、折柄通る按摩を呼びて、五体を委せ、驚嘆の内に夢地を辿り、東根温泉場に第一夜を明したり。

明くれば曉天床を出で、旅窓を排して眺むれば廣大なる地面に大廈高樓の散在して遠望の勝を暗め中には料理店、鰻屋等の如きも見えて昨夜の絃聲に思ひあたる等、何となく別天地の感あり、一見昨年の開湯になりし温泉場とは思考されず、尚是れに止まらず、目下建築中の旅舘商舗は、喧々囂々として耳朶を掩ふに遑あらず、此の勢を以て駸々乎發展擴張せば、尠くも東北第一流の一大温泉場となる或は二三年を出でざるべし。

編者は故意に曲筆して事實を誇大過賞し、敢て東根温泉場に阿諂する者にあらず、極めて卒直に其の一端に對しての感想事實を記するに過ぎざる也。

▲開湯　今日の淺日を以て何故に克く群泉を凌ぎ一頭地を抜いて如上の發達を告げしや、何人も知らんと欲する所なるべし、又同時に、編者の筆の事實なるを證する爲めに以降急激なる此の發展の原因を述べん。

之を要するに一斑温泉場としての發展盛大の原因即温泉場としての資格に少なくも三大要素の具備しあるの缺くべからざるを見るべし、曰く、

◎第一地勢　◎第二効能　◎第三風景

以上三ケの者の遺憾なく具備せば温泉場の隆盛は實に易々たる者也、世の所謂千年有余の歴史を有し尚ほ舊態依然たるの者は三大要素の一を缺き温泉場の發達隆盛の資格に乏しきに因るや必然なり、然るに東根温泉は第一地勢上最も有利なること、第二鑛泉の優良なること、第三風景の佳きこと、此の三ケの者の悉く具備し些の遺憾なし。

第一地勢と東根温泉　多くの温泉場は山間全く僻地にして、土地狹隘、隨つて至るに非常の困難と日數とを要する不利あり、是等は温泉一斑の特色とも見るべく、其發達を阻害するは論ずる迄も無く、故に其名克く世に聞ゆと雖も或る一定の期間を去れば、浴客減じ寂寥を極め次て隆盛を見ず、獨り東根温泉は、鐵路を去る僅に五六丁、砥の如き坦道によりて達するを得べく、楯岡、東根兩町は浴客の日用品を供給して余りあり、故に浴客は比較的頗る低廉なる費用を以て入浴し得らるべき利益あり。

第二効能　云ふ迄でもなく温泉効能の如何は、温泉場の死活問題とも見るべく病痾に無効なる温泉は普通白湯と同様何の擇ぶ所なく、豈、敢て他に之を求むるの要あらんや、東根温泉は正確なる分拆表の示すか如く鑛泉として最も優良の品質を備ひ漠大の湧量ありて諸病に効驗神の如く實に天與の靈泉なり。

第三風景　浴客の多くは病痾を癒するとか、或は靜養、此の二つの目的の存して温泉に至るものなり、温泉場として四圍の風物の殺風景にして無趣味、四觀悉く汚穢を極めば如何、浴客は不快厭感一日も止まらざるべし、故に此意氣に於て風趣の如何は延て温泉場の隆衰消長に至大なる關係を有するものなり、風致の東根温泉場は遠望絶勝の地なり、一言以て之を言へば優美なる田園の風趣に半ば山河秀麗の氣を加味したるもの東北の大陸的風景と許下せば或は大過なからん乎、靜養の好地なり。

顧ふに第二、第三は苟くも温泉場の名稱ある温泉は多少優劣こそあれ、全然取擇に適せずと言ふもの無きが如し、然れ共東根温泉の如く三大要素の全く具備しあるは稀有の事にして、稀有は遂に稀有の發展を告げし所以也。然れども亦温泉各旅館主の赤誠熱心なる苦心經營の與かりて力あるや、大ならずんば有ざる也。

東根溫泉地理

位置――交通――地勢――道路

▲前章記する處により大略東根溫泉場を解し、都門の紅塵萬丈を避けて此の天賦形勝の地に靜養を試んと欲する者は、第一胸裡に浮ぶべき問題は、其位置及び之に伴ふ交通機關なるべし、即如何にせば東根湯泉場に至に便爲なるかにあるべし

▲位置 東根溫泉場は山形縣北村山郡東根町に屬し、郡は縣の東北端に位し人口十萬二千、五町村に別ちて之を楯岡町に治む、東北は全く宮城縣宮城郡及び名取郡に接し、西北は最上郡に包圍され、東は東村山郡に隣し、西の一部は西村山郡に界す、而して東根溫泉場は郡の稍中央にありて、楯岡町と東根町との中間鐵道線路に沿ふたる田甫の中に在り。

▲交通 (1) 關西及び東京、宇都宮方面より來る浴客は官有鐵道東北本線上り列車に乘車し福嶋驛乘換にて奥羽南線下り列車に更ひ米澤、山形縣の各驛を經て、楯岡停車場に下車すべし。

(2) 北海道、青森、弘前地方よりの浴客は、奥羽南線上り列車により秋田、庄内等の各驛を經て楯岡停車場に下車すべし。

(3) 八ノ戸、盛岡、一ノ關、仙臺方面よりの浴客は官有鐵道東北本線上り列車により、福嶋驛にて奥羽南線下り列車に乘り換へ米澤、山形等の各驛を經由して楯岡停車場に下車すべし。

(4) 常盤地方よりの浴客は陸路各適當なる道路により福嶋驛に達するか、又常盤線下り列車に依り岩沼驛乘換にて東北本線に更ひ福嶋驛に至り奥羽南線下り列車に乘換へ米澤、山形等の各驛を經て楯岡停車場に下車すべし。

(5)

◉注意　福嶋驛を經由して來る浴客は近々開設になる宮崎停車場に下車すべし。楯岡驛より平坦なる陸路八丁にして東根温泉場に達すべし、定期乘合馬車（賃金三錢）人車（十錢）を投せは旅館の玄關まで至るを得べし、宮崎停車塲開設せば陸路四丁にして達するを得べし。

其他秋田、山形、酒田、鶴岡、新庄等よりの浴客は委しく記する迄もなかるべく、爰に略す。

▲地勢　は概して平坦なり、所謂山形平野の一部に在り、奥羽中央山脈は蜿蜒として東北より南に走り、其西南は最上郡を境として進むに隨て低く遙に最上川を控へ一帶の廣袤數十里に渉る耕田なり。

▲道路　國道は東京より福嶋を過ぎ羽前置賜の二郡を經て秋田縣に入る温泉塲の西部を貫くもの之なり。往來頻繁にして物貨の運輸至便なり。

又東根より關山を越えて陸前作並に達する道路あり、明治十三年工を起し關山峠に隧道を穿つて車馬相往來す、縣道にして關山新道と稱し有名のものなり。其他温泉より長瀞を經て白鳥に至るものと楯岡を經て土生田、尾花澤、延澤等に至る道路あり又楯岡より大石田方面に達する道路あり、他の道路又四方に岐れ交通運輸共に利便あり。

溫泉旅館

▲溫泉旅館　は現に營業し在る者左記十六軒あり其他目下新築中の者を合すれば早晩二十有余軒に達すべし。其内最も設備の完全したる第一流の旅館とも見るべきは、本郷館、鶴屋、常盤屋、青松館、東屋、元湯等なりとす、即左の如し。

（いろは順）

○本郷館　○高崎屋　○東屋支店本店
○北長屋　○長岡館　○柴田屋
○常盤屋　○南長屋　○元湯
○鶴屋　○舞鶴屋　○青松館
○龜の湯　○不二の湯

其他花の湯、嵐湯等數軒あり、何れも客室各數十を有し浴槽又極めて清雅なり、各旅館よりの眺望頗る克く浴客の待遇殊に深切なるは他に見る能はざる所なり、今各旅館の有する泉質及び効能を掲ぐれば左の如し。

▲本郷旅館　の泉質は、無色透明礦味を有し、反應中性にして比重、一、〇〇〇四一八、泉温四十度なり、其含有する各成分及び其量は左の如し。

●クロールカリーム　〇、〇〇五六二〇二
●硫酸カルシウム　〇、〇一六九一五
●クロールカルシウム　〇、〇二九六二
●炭酸カルシウム　〇、〇一三四一
●炭酸マグネシウム　〇、〇〇一〇五四
●硅酸　〇、〇〇三九二
●蒸發殘渣　〇、一三五三

▲依りて重なる効能左の如し。

効能　慢性消化不良。慢性胃腸カタール。リウマチス性諸症。痛風。肋膜。腹膜。滲出物。皮膚諸症。慢性皮膚潰瘍。子宮及膣の慢性諸症。

▲鶴屋旅館　の有する温泉の泉質及び主治効能は、食鹽泉に屬し反應中性にして含有する所の各成分及び其量は左の如し。

●無水硅酸　一、四三四四
●格魯兒那篤留謨　〇、七七二三七
●格魯兒加留謨　〇、〇三九二
●格魯兒麻倔湼傁謨　〇、〇〇五六
●格魯兒加兒傁謨　〇、一五八九

▲重なる効能依りて左の如し。

効能　慢性氣管支加荅兒。喘息。神經痛。慢性胃腸加荅兒。胃腸消化不良。子宮諸病。筋肉僂麻質斯。關節僂麻質斯。痛風。肋膜諸症。腺病其他病後衰弱症。

▲常盤屋旅館　の泉質及び効能は、泉質無色透明、鑛味を有し反應中性にして比重一、〇〇〇三三七氣温攝氏五度に於て泉温五十四度を示す、百分中に含有する各成分其量は左の如し。

●クロールカリウム　一〇、〇〇二六三四九
●クロールナトリウム　一〇、〇九五八八
●硫酸カルシウム　一〇、〇二七一八七
●クロールカルシウム　〇、〇二三七四
●炭酸カルシウム　〇、〇一四二三
●炭酸マクネシウム　〇、〇〇一一〇二六
●硅酸　〇、〇〇四五
●蒸發殘渣　〇、一四〇六

▲以上の分析表に因れば左の諸症に有効なり。

効能　慢性消化不良。慢性胃腸カタール。僂麻質斯。痛風。肋膜。腹膜。滲出

物。皮膚諸症。慢性皮膚潰瘍。子宮及び膣の慢性諸症。

▲**青松館旅館**　の有する泉質及び効能は無色透明礦味を有し反應中性にして比重一、〇〇三〇五各成分及び其量は左の如し。

●クロールカリウム	〇、〇〇三四九六
●クロールナトリウム	〇、〇八八五三
●硫酸カルシーム	〇、〇〇八三五二
●クロールカルシウム	〇、〇一四九七
●炭酸カルシウム	〇、〇一〇〇六
●炭酸マク子シウム	〇、〇〇一〇九四
●硅酸	〇、〇〇四五二
●蒸發殘渣	〇、一三四九

▲主治効能左の如し。

効能　慢性消化不良。慢性胃腸カタール。痛風。腺病。僂痲質斯性諸症。肋膜腹膜。滲出物。子宮及膣の慢性諸症。其他病後快復期等。

▲**東屋支店旅館**　本店は明治廿一年の開業なり、湧出する當時の温泉は泉温極めて微弱なるを以て浴槽に導きて更に煮沸して入浴に供し來りし由、故に發見者として兎に角古き光榮ある歴史を有す、支店の温泉は昨年の發見に係るものにして其の泉質及び効能泉温五十四度ありて反應中性含有する各成分及び其量は左の如し。

●硅酸	〇、〇〇四九二
●加爾僂謨(酸化物)	〇、〇七〇〇
●麻倔涅僂謨	〇、〇一〇三

●格魯兒	〇、五二三九
●硫酸四酸化硫黄	〇、二七二一
●那篤留謨酸化物	〇、四一〇〇
●加　留　謨	〇、〇二三二
●蒸　發　殘　渣	一、四五一〇

▲右分拆表に依り主治効能左の如し。

効能　慢性氣管支加答兒。喘息。肋膜諸症。神經痛常習便泌。慢性胃加答兒。子宮内膜炎。子宮實質炎。白帶下其他の子宮諸症。腺病。脾疳消化不良。慢性關節炎。僂麻質斯。

▲元湯旅舘　天野又右エ門の經營なり、同舘の泉質及び主治効能下の如し。

攝氏五度に於て泉溫四十八度を示し反應中性にして含有する各成分量を錄す。

●クロールカリム	〇、〇〇三八三九
●クロールナトリウム	〇、〇〇六八〇八一
●硫酸カルシウム	〇、〇〇七六七五
●クロールカルシウム	〇、〇一三一六
●炭酸カルシウム	〇、〇一〇九八
●炭酸マグネシウム	〇、〇〇一三九五
●硅　　酸	〇、一三二一
●蒸　發　殘　渣	〇、一三三一

▲因りて主治効能左の如し。

効能　慢性消化不良。慢性胃腸加答兒。痛風。僂麻質斯。肋膜。腹膜。滲出物。皮膚諸病。慢性皮膚潰瘍。子宮及膣諸症。

▲長岡館　同館の泉質は反應弱酸性にして其の含有する所の各成分及び量は次の如し。

●無水硅酸　〇、〇五二〇
●硫酸四酸化硫黃　〇、一一九〇
●格魯兒　〇、一四四六〇
●麻偏涅失謨(酸化物)　〇、〇〇五八
●石灰(炭酸鹽)　〇、〇八八〇
●那篤留謨　〇、三五七八
●加留膜　〇、〇一六八
●炭酸鹽　少量
●遊離炭酸　稍多量

▲主治効能次の如し。

効能單一なる消化器諸病。胃加答兒。腸加答兒。消化不良。慢性氣管支加答兒。神經痛。僂麻質斯。肝臟脂肪變質。膀胱結石痛風。糖尿病常習便祕。痔疾。子宮諸病。適當の飲料を許す。

▲高崎館　有する泉質効能左に掲ぐ。

氣温五度。泉温五十四度。反應中性。蒸發殘渣――〇、一三五八。

●格魯兒　〇、四九七
●加留謨(酸化物)　〇、〇二一二
●那篤留謨(同)　〇、四〇六四
●麻偏涅失謨(同)　〇、〇〇六二
●硅酸　〇、〇五九二

●加爾叟謨(酸化物)　〇、二五九四
●硫　酸(四酸化硫黄)　〇、二五九四
●硫化水素　微　量

▲以上の分拆成績表に依れば、左の諸症に有効なり。
効能　慢性胃腸加答兒。消化不良。肋膜諸症。慢性氣管支加答兒。神經痛。常習便泌。痔疾。肝臟病。慢性腎臟病。子宮諸病。腺病。僂麻窒斯。疥癬其他の皮膚病等。

温泉縁起

▲東根温泉の縁起。。。。。。

……發見當時の狀況……

元來此の地方は耕田數里に涉り居るも、灌漑に不便にして年々稻作の植付に非常の困難を感じ居る折柄、天野又右エ門なる者、種々苦策の末、堀貫井戸を以て耕田に引用する用水を得んとして此地を穿鑿したるに、偶然にも温泉の噴出を得しに始まれり、時に明治四十三年六月八日なり。

▲發見當時の狀況。。。。。。　耕田の用水を得んとして、突如温泉の噴出に逢遇したる事とて、恰も古金を掘り出したるが如く、欣喜例令るに者なく直に假小屋を建て浴槽と爲せしに忽ち世間に喧傳し近郷近在より半信半疑之を見んとして群集する者雲霞の如く、遂には辨當等携帶して入浴を試る者日々數千を以て算するに至り爲に楯岡、東根兩町間の道路は全く人の山を以て築かれ未曾有の雜踏を極めたり。

玆に於てか、卒先他に穿鑿を試むる者次第に加はり之等皆悉く豐富なる温泉の湧出を得て一方旅館の新築に着手する者もあり、又は商店を建築する等附近よりの移住者續々增加し喧騷の内に見る〲日に面目を一新し昔は農夫より他に絶えて訪ふ

人だに無き此地も宛ら活動寫眞の如く温泉の一閃忽ち一市街と化し終はんぬ。其後も亦温泉を得んとして、附近に試鑿する者多く猛烈停止する所を知らざる有様となれり、斯くては天與の温泉も濫鑿に傷けられ遂に濫傷の痛に絶えずして將に全滅の悲運に陷るべきやも未だ知るべからざる一切那、當局者又明あり、遂に縣令を以て濫掘を停止し始めて萬代不滅の磐上に繁榮するを得たり。當時は穿鑿の競爭激烈を極め其光景悽然たりき、今當時の混戰狀態を左に穿鑿の年月日人名等により將來の參考迄に錄す。

湧出月日	氏名
六月 六日	天野又右エ門
六月二十日	須藤孝太郎
八月 五日	工藤直太郎
八月二十日	田中善次郎
八月廿五日	菊池庸太郎
八月廿八日	設樂彦兵エ
八月三十日	深瀬金藏
九月 一日	工藤直太郎
九月 五日	天野良吉
九月廿一日	須藤孝太郎
十月二十日	工藤禎三
十月廿八日	戸村貞次郎

十一月一日	菊地庸太郎
十一月二日	横尾彌門
十一月六日	青木鶴太郎
十一月八日	菊池庸太郎
十一月十日	横尾彌門
十一月十日	横尾彌門
十一月十三日	天野良吉
十一月十五日	横尾彌門
十一月十七日	横尾竹次郎
十一月十七日	須藤松四郎
十一月十九日	横尾彌門
十一月十九日	横尾正太郎
十一月廿日	柴田宇之吉
十一月廿日	横尾彌門
十一月廿日	横尾季藏
十一月廿三日	横尾彌門
十一月廿五日	横尾彌門
十一月廿五日	横尾彌門
十一月廿五日	須藤松四郎
十一月卅日	横尾彌門
十一月卅日	横尾彌門
十一月卅一日	横尾彌門
十二月二日	須藤松四郎
十二月四日	阿部彦四郎
十二月四日	横尾彌門
十二月五日	菊地長五郎
十二月六日	横尾竹次郎
十二月六日	菊池庸太郎
十二月九日	天野又右エ門
十二月十日	横尾竹次郎
十二月十三日	須藤松四郎
十二月廿日	東海林庄七
十二月廿日	横尾季藏
十二月廿日	横尾量助
十二月廿二日	須藤松四郎
十二月廿五日	江澤勝磨
十二月廿五日	横尾榮五郎
十二月廿五日	横尾正太郎
十二月廿五日	菊池庸太郎
十二月廿七日	横尾季藏
四十四年一月六日	天野又右エ門
一月十一日	山本半四郎

一月十五日	横尾彌門	一月十八日	横尾量助	一月二十日	横尾彌門
一月十六日	横尾彌門	一月二十日	横尾彌門	一月二十日	横尾彌門
一月十六日	太田岱彌	一月三十日	横尾彌門	一月廿六日	青木嶋太郎

爾來原泉の賣買、若しくは貸與等に依り變更せるも現に温泉の噴出口は六十有四ヶ所にありて悉く豊富なる鑛泉を噴出す。

東根町沿革

往古時代――城主時代――代官時代――松前時代――郡縣治下

▲沿革。。上古村山郡の中部は渺茫たる一大湖水にして東根は西村山郡西根と共に東西相對して最も早く湖畔に發達したる村落なりしと云ふ、今に荷渡地藏あり、此處より荷船を渡したりと云ふ、聖武天皇の御宇天平年間、僧行基諸國行脚の際湖水の狀を觀察し西郷村御殿の岩石を開鑿し湖水を疎通せしめしより耕地廣大となり人民次第に繁殖し今日の如く數多の村落を見るに至れり。

▲城主時代。。淳和天皇の御宇天長四年大森の城主壬生宰相秀重なる者東根に於て八千石を領す、嘉祥年中右衛入道宗純地頭となる、正平二年從五位上備前守平朝臣長義、相摸の鎌倉より當地に移住す、大に城廓を築き號して小田嶋城と云ふ、此年若宮八幡宮を相州鎌倉の鶴ヶ岡より遷座す、今の鄕社之れなり、應永二年坂本頼高小田嶋氏に代りて城主となる、坂本氏は頼任、頼舜、頼宗、頼息、頼景に至り頼景死して嗣子なし、慶長八年坂本家の老臣里見薩摩守景佐城主となる、元和七年子源右エ門義重繼ぐ、義重は慶長拾九年最上家の騷亂に際し身に寸過なきも連座して阿波に流され里見家亡ぶ、里見氏亡ぶるに當り先方浪人と云ふ者生じ此等の浪人は此後松平大和時代まで代々當城の城番と爲れり。

◆第二城主時代　元和八年鳥井左京亮忠政最上氏に代りて山形の城主となれり、寛文八年迄で山形領となる、天保八年迄宇都宮領となる、寛保元年迄白河領となれり。

◆代官時代　寛保二年より安政二年まで徳川領となる。

◆松前時代　安政二年より明治三年まで松前領となる。

◆郡縣治下　明治元年府縣藩の令下り政權統一の議起り明治三年松前氏封土を奉還するに當り本郡尾花澤と共に民政局に屬す、尋で酒田民政局、酒田縣と改稱す。明治三年酒田縣を廢して山形縣を置く、依りて四年二月より山形縣に屬す。當時本村は寛保二年以來七組に分れ組每に一役場を置き、名主、組頭、百姓代等を以て村務を處理し來りしが、明治の維新の後、戸長、里正、村長等の職名屢々變更し明治十年全く七組を廢して一役場となし同十一年原方、宮崎、小林新田、坂垣新田、牛嶋新田の六ケ村と聯合して一役場を建てしが同二十年一月原方、宮崎、小林新田を合せて一村となし、同二十二年町村制を布かるゝに當り支村、六田、神町、坂垣新田、中嶋新田、大林新田の五ケ村を併せて東根村と稱せり、明治二十九年四月東根村を東根町と改稱す。

東根溫泉の氣候

人情風俗——財政經濟

◆氣候　は概ね溫和にして酷暑の時と雖も華氏八十九度を越えず、又酷寒の時と雖も四十度を下らず、積雪は甚だ尠く大体尺餘に達すること無し。

◆人情風俗　概して華美を貴はず、質朴溫良にして隣傍相和し歡憂を共にするの風あり、克く勤儉貯蓄の美風行はれて浮華亡弱の今日に嚴然として感染せず、蓋

し報德教の盛なる所以なる可し。

◎財政經濟　地方概しての生活狀態は一班に低く概ね農業を以て業と爲す、商工業之に次ぐ、傍ら養蠶、葉煙草の栽培、製炭等を以て副業となす、工業としては酒造業最も盛なり、次に衞生思想の普及は實に驚く可き程にて先づ他縣より入る者は先づ第一に觸目すべし、如何に細民の地家にありても極めて能く掃除の行はれて清潔なり。

東根溫泉塲の風景

……獨特の風趣……靜養無比の地……

◎風景　としての東根溫泉塲は全く獨特の風趣を有す、鐵路の人となり之を望まば平凡何等の價値なき無趣味殺風景なる溫泉塲の如く見えるは、獨り編者之已にあらざるべし。然るに一度此地を踏まば、他の溫泉塲の有する能はざる此地特有の風趣に接するを得べし。何ぞや、曰く、遠望絕勝の地なり、即田甫の內と雖も土地高燥にして天空廣濶其前面に最上川を控へ遙に進むに隨ひて低く、裕に千里の壯觀を瞰望し得ること之れなり、故に靜閑無量大自然の氣に接觸せんとせば此の地を措いて他に求むる可からざる也、是れ實に此地の誇榮とすべく、蓋し編者の獨特と稱する所以なり、以降筆を洗つて此壯絕なる風景を讀者の前に展開せんと欲するも、偖て筆を採れば徒らに腦中其廣大無邊、悠々遍らざる大自然の景色の描かれて、其那邊よりせば萬一眞に近き乎、大過無からん乎を苦慮する之已にて苦吟屢々筆を投ぜんとしたり、願ふに拙筆の遠く及ばるは勿論其一端にして尙ほ危し、幸に恕せ。

◎見渡せば　大空高く澄みて崇高の氣天地に滿てり、其前面は廣袤千里の耕地にして、右に玲瓏たる芙蓉の靈峰を望み、之れより連なる峰巒は、薄紫の雲に包ま

れて遠く蜿蜒として雲烟萬里の外に模糊たり、近く遠く、右に左に點々小山の森の配置ありて炊煙の夥ふは思ふに村落なるべし、其影や、靜かに淡く麗かに消し。初秋の稲田は微風に金色の長蛇を漂はせ此の間を彩り眼界の一圓は眞に是れ太古の面影とや、歌人は言ふなるべし。田園的風光の眞美宛ら名筆の油繪を見るが如し。即田園の優美なる風趣に半ば山河秀麗の氣を加味したるもの、所謂東北の大陸的風景は此地の専有にして又他に得難し。

名所舊蹟

東根城跡——鷺ノ森——長瀞城跡——楯岡城跡

▲東根城跡　縣誌提要に云ふ、東根中央に城墟あり、東北百十七間、南北七十五間五稜形を爲し濠壘の舊様を存す、正平二年小田嶋長義の建築する所なり、元和中慶城となる。

▲東根鷺の森　は慶長五年上杉氏庄内勢の侵掠にあたり、守將黒見氏の應戰したる地なり。

大日本地名辭書に曰く、永慶軍記に天正十六年越後の本庄繁長が大泉、庄内を略取するの後兵を進めて最上川を渡りし事を載す、他書の之を云ふものなし、蓋訛謬に屬す、恐らくは慶長五年九月庄内駐長の上杉氏兵が、最上の境に入り河西を掠め長瀞、東根を侵略したる事を誤る歟云々とあり。

▲長瀞城跡　東根温泉の西二十丁、最上河畔の平處を占む往時は最上八の一なりしが近世中廢の後米津氏一萬口の陣屋なり、城跡は村の中央にありて凹字廢城を成す、寛政十年米津氏武州久良城郡金澤より轉任し長瀞に陣屋を置く、明治二年上總國山邊郡大網へ轉邑し次で廢滯となる。

▲**楯岡町**。。。 は温泉より北十丁余に在り、北村山郡の治所とす、鐵道山形より十六哩新庄より二十二哩山形平野の北端に當る、其東嶺を甑嶽と云ひ最上川を去る西一里に在り、古城跡は山麓に遺れり、天正中最上氏の驍將楯岡甲斐の築く所なり、壹萬八千石を領す、最上氏三代光直の四男伊豫守滿國を楯岡殿と云ふ。『三千行脚集に云楯岡村法恩寺に常念佛上人に閑談せしが、此山寺は無双寂寞の所なり、緣起眺望の一軸を望にありて書し、折りふし岨路を凌ぐ。』

鐘の音の法のしるしを竿にして
道はまよはず雪の山寺

溫泉の雜況

……別天地の觀……

▲**溫泉塲の雜況**。。。。。 に至りては何所の温泉も敢て大差なきもの丶如し、温泉塲とは言を換へて是を言いば、一の樂園地にして即誤樂塲とも稱すべく宛然別天地の觀を呈する者、之を普通一班の狀況なりとす。

東根溫泉も亦東西數丁にして都邑を有すと雖も然も全く純粋の都會化せずして何となく別天地の觀あり、東京、福嶋、或は秋田或は仙臺と四方より集合する浴客は商に工に農に官吏に社會一般の階級を網羅して此娛樂塲に保養を試むる者、皆悉く滯在二三日にして互に相語らひ更に其間に城壁を設けず十年竹馬の友の如く或は娛樂塲に至りて自慢の玉突を戦はす者あり、又は附近の松蕈狩に淸遊を試むる向もあり、衆内にありては、國基に弈基に各御國談を交し趣好に隨ひて樂む樣宛ら一家族の如し。

今之れを大略一日に紹介せんに、先づ、東天漸く紅を呈し旭光の將に東嶺に昇る

の時、早くも淸澄一針を認むべき浴槽に入りて身を淸め歩を徐ろに附近の畦畔に運べば、目に入る百觀は皆時的ならざるは無く、朝靄面を掠めて言い知れぬ壯快を感ずべし、適當の運動を終ひて旅宿に歸れば、女中の眞情は又都會と異り巧言令色的の待遇こそなけれ階級賃金に依り厚薄なく極めて實直に眞意、眞情を以て客の手足の如く働くなり、軈て朝食を喫し終れば間もなく商人等來りて客の御用を伺ふ之れ頗る便利なり。

夜に入りて殊に別天地の樂園を實現する者あり、鳥は時を急ぎ人は一日の勞を終ひるの時、四隣は早くも森閑として靜かに眠るなり、此間、獨り各旅館の萬灯は庭園より田甫を五色に彩りて虫の音淸く奏し恰も天樂の如く浴客をして有頂天の感あらしむ。

東根溫泉場の將來

◆溫泉場の將來　以上章を追ふて記するが如く、東根溫泉の所感を筆頭に浴客の道案內、位置地勢氣候、旅館泉質効能、風景名所舊跡、溫泉の雜況に及びて最早浴客たらんと欲する者に東根溫泉の價値及び概樣を周知せしむるに近きが如し、故に本編將來の東根溫泉を記して以て完了を告げんと欲する也、是れ他無し、過去ある者は將來無かるべからず、故に過去より現在に至り而して將來に及ぶ所以なりとす。

既に地の利を占むる東根溫泉は、泉質に於て、風景に於て顯然群泉を凌ぐ者あることは前に論ずるが如し、旅館の如きも日進月步日に新面目を展き駸々乎として向上發展の域に進みつゝあり、斯の勢を以てせば楯岡、東根間は商舖軒を並ぶるに三五年を越えざるべし、思ふに將來東北一流の溫泉場たるべし、恐るべき盛大を爲さん

と言ふもの、要するに東根温泉場は廣大なる地面と豊富なる鑛泉とを有すれば也、是れ實に發展盛大の元素なり、如何に浴客集合するも土地狹隘にして旅館を建築するに其所を得ずんば全く發展に限り有る者と言ふべし、噴騰湧出して六十有四ヶ所に散在する温泉は、相待つて破竹の勢を以て此地の繁榮を促進せしめつゝあり、加ふるに陸羽横斷鐵道の完成も目睫の間に逼れり、竣工の曉は更に酒田、庄内、鶴岡、宮城よりの浴客多かるべく、期せずして東奥に於ける第一流の温泉場として健全なる發達を遂ぐるや明なり。

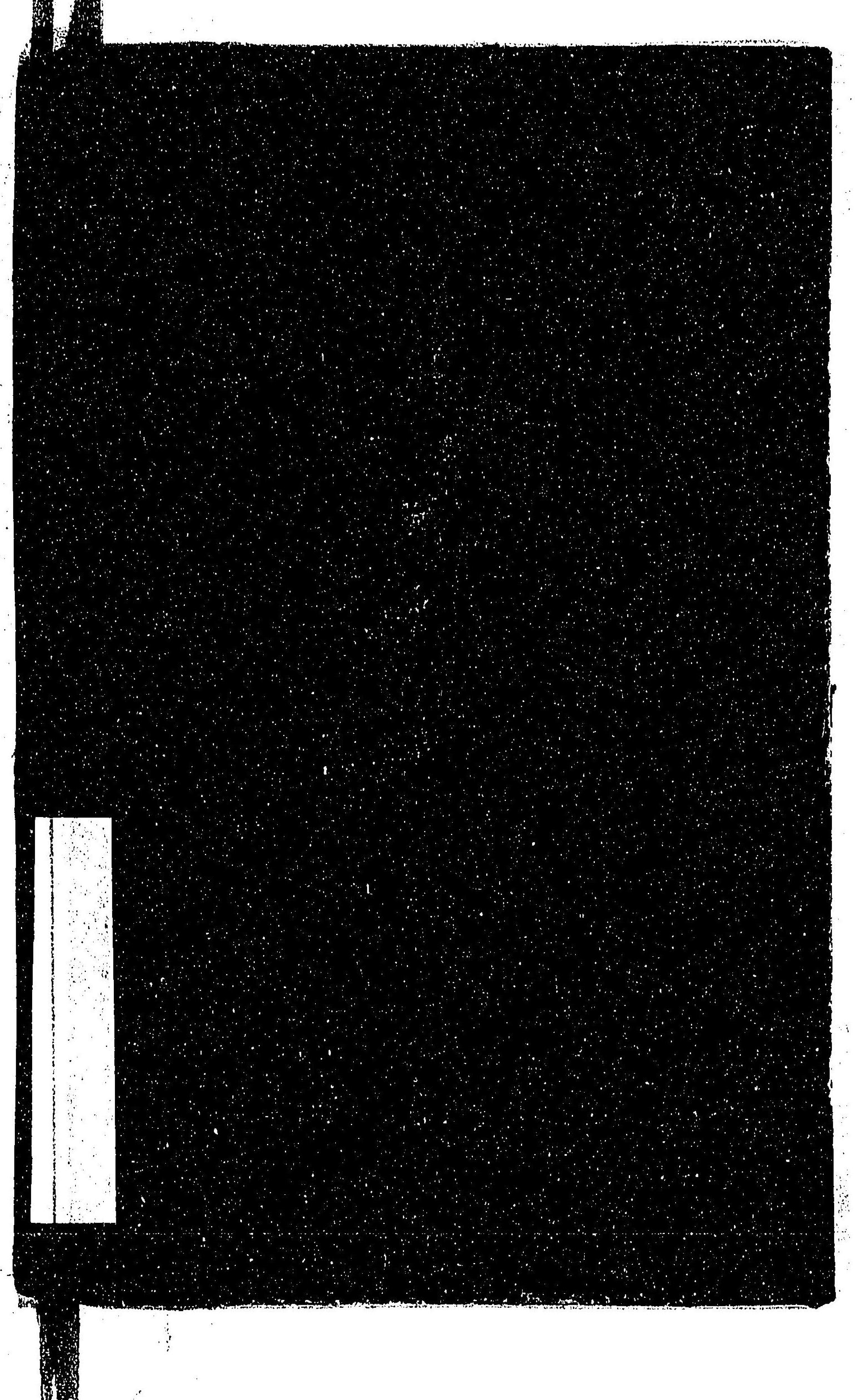
終に此地に温泉を噴出せしめし天惠に深く感謝の意を表せずんばあらざる也(完)

889
7

明治四十四年十一月十日印刷
明治四十四年十一月十三日發行 (定價金拾錢)

不許複製

編輯者 仙臺市北二番丁十一番地 金澤西石
發行者 山形縣北村山郡楯岡町 丹野九内
印刷所 仙臺市北二番丁十一番地 東北出版協會出版部
印刷者 仙臺市北目町八十五番地 吉城林兵衛
發行所 楯岡町 長崎屋書店

[illegible]

334
1
7.